

企画総務消防常任委員会

議案はいずれも原案のとおり可決

企画総務消防常任委員会は、12月14日(水)に委員会を開催し、6件の議案について慎重に審査しました。

【審査】

- ・議案第 99号、議案第100号、議案第101号、議案第102号、議案第103号、議案第104号

【主な質疑】

○議案第101号に対して

- Q 国スポ・障スポの準備開催にかかる職員を27名増員されるが、どこを強化されるのか。また、正規職員、任期付職員の採用割合は。
- A 令和5年度に13名、令和6年度に14名、合計27名を増員し、国スポ・障スポの体制強化をする。また、各種団体との連絡調整などの業務が数多く出てくる一方で、内部的な処理もあるため2課体制にする。

採用割合は確実な数字は出せないが、任期付職員と正規職員の両方の採用で進める。

- Q 2か年で27名を増員されるが、国スポ・障スポ後の配置はどうされるのか。
- A 任用期間を限定した職員の採用を考えているが、正規職員も一定数必要。国スポ・障スポ後は、退職者の補充人数を減らすことにより職員数を徐々に減らしていき、令和14年度頃には今の規模に戻していきたい。その間の増員分は各部署の業務量を見ながら配置する。

【結果】

- ・議案は原案のとおり可決

市政について
質す!

11月定例会個人質問

19人の議員が、市政に対する個人質問を行いました

本会議では、事前申し込みによる手話通訳を実施しています。



ライブ配信・録画配信の視聴について

本会議は、ライブ・録画配信ともに映像でご視聴いただけます。

また、常任委員会と特別委員会についても、ライブ配信を映像でご視聴いただけます。

配信については、左のQRコードまたは「彦根市議会インターネット映像配信」にてご覧ください。(http://www.hikone-city.stream.jfit.co.jp/)



各議員の質問をQRコードから見る

各議員ページ右上のQRコードを読み取っていただくと、それぞれの議員の質問内容に関する録画映像配信ページにつながります。



角井 英明議員
福祉病院教育常任委員会

Q 生ごみの堆肥化の現状は

A 市民団体と協働して取り組んでいる



その他の質問

- ・ごみの資源化の取組について
- ・紙おむつの資源化について

Q 生ごみの堆肥化に取り組む団体への支援は十分か。

A 6つの団体に普及啓発を委託し、彦根市ごみ削減推進協議会を立ち上げ、ボカシ作りや初心者向け体験講習会の実施など、協働して普及啓発している。また、活動場所や、作製したボカシの販売場所も提供している。

Q 堆肥化しても使うところがないという課題に対しての市の対策は。

A 課題は認識しており、彦根市ごみ削減推進協議会と検討しているが、具体的な対策の実施には至っていない。

Q 堆肥が利用できる市民農園をつくるべきでは。

A 東びわこ農業協同組合が開設する市民農園にまだ空きがあることから、市が主体で開設する予定はない。しかし、堆肥活用はごみ減量対策として有効な方法なので、関係団体等と協議、検討していきたい。



▲ボカシの販売



森野 克彦議員
企画総務消防常任委員会

Q 旭森公園の今後の整備の可能性は

A 整備の優先度が高くなれば整備の実施も十分にあると考えている



その他の質問

- ・清掃センターの休日のごみ等の持ち込みについて
- ・市街化調整区域の荒れ地の問題解決に向けた今後の対策の方向性は

Q 旭森公園が都市計画決定されたのはいつか。

A 昭和42年9月23日。

Q 旭森公園の整備率は。

A 公園の計画決定面積は1.3haで、その内の0.1haを昭和43年4月1日に供用開始しており、整備率は約7.7%である。

Q 都市計画決定されている市の公園全体の整備率は。

A 66.7%である。

Q 他の公園と比べて整備率が低いのはなぜか。

A 山と一体の公園として計画しており、未整備地の山は自然の状態で緑地としての機能があるから、今は整備の計画はない。

Q 旭森公園の今後の整備の可能性は。

A 未整備地の山についても、健康活動のために登山道を整備することもある。その必要性が地元・市と共有されて整備の優先度が高くなれば整備の実施も十分にあると考えている。



▲昭和42年の都市計画決定以降整備率が7.7%から進んでいない旭森公園



個人質問



伊藤 容子議員
市民産業建設常任委員会

Q トンネルコンポストは固形燃料の
受入れ先の確約がセットでは

A 一般論として受入れ先が見つから
ないと決定は当然できない



その他の質問

- ・中期財政計画について
- ・彦根北びわ湖大花火大会について
- ・ひとり親家庭の養育費受け取りへの支援について

Q ごみ処理方法のトンネルコンポスト方式とは。

A 生ごみやプラスチック、紙などが混在する可燃ごみを破碎混合し、微生物が生ごみを発酵分解する好気性発酵乾燥方式の一種である。

Q 以前の議会答弁で市が示した本方式のデメリットは何か。

A 1市4町の広域ごみ処理施設で想定されるごみ受入れ量を継続して処理できるか、また本方式で生産される固形燃料の利用先の安定的な確保が不明確なこと、がデメリットである。彦根愛知犬上広域行政組合が今後調査検討する。

Q トンネルコンポスト方式の導入は、固形燃料の安定した受入れ先の確約がセットで決定されるべきと考えるが、市の見解は。

A 一般論として受入れ先が見つからないと決定は当然できないということは間違いない。



▲トンネルコンポスト方式の図



中川 睦子議員
市民産業建設常任委員会

Q 発熱時の受診体制強化と検査
キットは市が配布すべき

A 関係機関と年末年始の調整を
図っている。キットは配布しない



その他の質問

- ・中学校卒業までの医療費助成と給食費無償化の早期実現について
- ・金亀公園の多目的競技場を市民のために運営すべきでは

Q 新型コロナウイルス感染症の第7波で市民の声から見えた課題は。

A 急激な患者の増加で医療がひっ迫し受診できない、どこで検査が受けられるのかわからない等、情報が十分に届いていなかった。

Q 第8波に向けた国・県からの市の対応についての指示は。

A 市民に対してコロナワクチン接種を勧め、インフルエンザの同時流行による医療ひっ迫を抑えるため、市販の抗原定性検査キット、解熱鎮痛剤、食料の備蓄を呼びかける内容。

Q 受診抑制が言われているが、発熱時の受診体制強化と検査キットは市が配布すべきでは。

A 彦根休日急病診療所では、発熱外来に特化し、年末年始の体制強化の調整を図る。診療体制を維持し強化するためには、キットを確保する必要があるが、配布することは考えていない。



▲受診体制強化が求められる第7波時の彦根市立病院の発熱外来